

聖霊降臨節第 6 主日礼拝説教要旨(6 月 28 日)

『愛と恵み』清瀬弘毅教師

マルコによる福音書 2:1-12

主イエスがカファルナウムの家におられた時、大勢の人々が集まっていて、誰も中に入れない状態でした。その時、四人の男が屋根に穴をあけて、中風の人を、床ごと、主イエスの前につり降ろしたのです。主イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に“あなたの罪は赦されている”と言われました。

ここで、主は御自分が地上で罪を赦す権威を持っている事を告げられたのです。そして、主はその人に“起き上がって、床を担いで家に帰りなさい”と言われました。その人は起き上がり、身も心も癒されて家に帰りました。

ここで教えられる事は、私達が教会に導かれる為に、どうしても、助け手が必要である。誰かの助けによって、神の家族になることが出来るのです。主イエスは、この病人を“子よ”とお呼びになって、御自分の家に迎え入れました。

イエス・キリストの福音は、悔い改めて、罪が赦されて始まる神の国である。

そこにいた律法学者達は、罪の赦しを宣言する主イエスに対して怒りを覚えた。彼らは罪意識が無かったからです。ヨハネ福音書には「父はだれも裁かない。裁きの事は、すべて子にゆだねられたからである」(5:22.)とあります。イエス・キリストの贖いの業によってもたらされた罪の赦しと癒しは、私達の世界に、「愛と恵み」を、現して下さったのであります。